

### 3 集合を作り得る関係式

[sthmsm!]

**定理 3.1.**  $R$  を関係式とし,  $x$  を文字とする. また  $y$  を  $x$  と異なり,  $R$  の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.2) \quad !y(\forall x(x \in y \leftrightarrow R))$$

が成り立つ.

[sthmsmex!]

**定理 3.2.**  $R$  を関係式とし,  $x$  を文字とする. また  $y$  を  $x$  と異なり,  $R$  の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.19) \quad \text{Set}_x(R) \leftrightarrow \exists !y(\forall x(x \in y \leftrightarrow R))$$

が成り立つ.

[sthmsmbasis]

**定理 3.3.**  $a$  を集合,  $R$  を関係式とし,  $x$  を  $a$  の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$\forall x(x \in a \leftrightarrow R) \rightarrow \text{Set}_x(R)$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1)  $\forall x(x \in a \leftrightarrow R)$  ならば,  $R$  は  $x$  について集合を作り得る.
- 2)  $x$  が定数でなく,  $x \in a \leftrightarrow R$  が成り立てば,  $R$  は  $x$  について集合を作り得る.

[sthmallegsmlem]

**定理 3.4.**  $R$  と  $S$  を関係式とし,  $x$  を文字とする. また  $y$  を  $x$  と異なり,  $R$  及び  $S$  の中に自由変数として現れない, 定数でない文字とする. このとき

$$(3.23) \quad \forall x(R \leftrightarrow S) \rightarrow \forall y(\forall x(x \in y \leftrightarrow R) \leftrightarrow \forall x(x \in y \leftrightarrow S))$$

が成り立つ.

[sthmallegsm]

**定理 3.5.**  $R$  と  $S$  を関係式とし,  $x$  を文字とする. このとき

$$(3.29) \quad \forall x(R \leftrightarrow S) \rightarrow (\text{Set}_x(R) \leftrightarrow \text{Set}_x(S))$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1)―4) が成り立つ.

- 1)  $\forall x(R \leftrightarrow S)$  ならば,  $\text{Set}_x(R) \leftrightarrow \text{Set}_x(S)$ .
- 2)  $x$  が定数でなく,  $R \leftrightarrow S$  が成り立てば,  $\text{Set}_x(R) \leftrightarrow \text{Set}_x(S)$ .
- 3)  $\forall x(R \leftrightarrow S)$  であるとする. このとき  $R, S$  のうちの一方が  $x$  について集合を作り得るならば, 他方も  $x$  について集合を作り得る.
- 4)  $x$  が定数でなく,  $R \leftrightarrow S$  が成り立つとする. このとき  $R, S$  のうちの一方が  $x$  について集合を作り得るならば, 他方も  $x$  について集合を作り得る.

[sthmisetbasis]

**定理 3.6.**  $R$  を関係式,  $T$  を対象式とし,  $x$  を文字とする. このとき

$$(3.45) \quad \text{Set}_x(R) \rightarrow (T \in \{x \mid R\} \leftrightarrow (T|x)(R))$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1)  $R$  が  $x$  について集合を作り得るならば,  $T \in \{x \mid R\} \leftrightarrow (T|x)(R)$ .
- 2)  $R$  が  $x$  について集合を作り得るとする. このとき  $T \in \{x \mid R\}$  ならば,  $(T|x)(R)$  である. またこのとき  $(T|x)(R)$  ならば,  $T \in \{x \mid R\}$  である.

[sthma=iset]

**定理 3.7.**  $a$  を集合,  $R$  を関係式とし,  $x$  を  $a$  の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$\forall x(x \in a \leftrightarrow R) \rightarrow a = \{x \mid R\}$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1)  $\forall x(x \in a \leftrightarrow R)$  ならば,  $a = \{x \mid R\}$ .
- 2)  $x$  が定数でなく,  $x \in a \leftrightarrow R$  が成り立てば,  $a = \{x \mid R\}$ .

[sthmsmbasis&iset=a]

**定理 3.8.**  $a$  を集合,  $R$  を関係式とし,  $x$  を  $a$  の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.46) \quad \forall x(x \in a \leftrightarrow R) \leftrightarrow \text{Set}_x(R) \wedge \{x \mid R\} = a$$

が成り立つ. またこのことから, 次の (3.47) が成り立つ.

$$(3.47) \quad R \text{ が } x \text{ について集合を作り得るとき, } \{x \mid R\} = a \text{ ならば, } \forall x(x \in a \leftrightarrow R).$$

[sthmsmtiset&asubset]

**定理 3.9.**  $a$  を集合,  $R$  を関係式とし,  $x$  を  $a$  の中に自由変数として現れない文字とする. このとき

$$(3.55) \quad \text{Set}_x(R) \rightarrow (\forall x(x \in a \rightarrow R) \leftrightarrow a \subset \{x \mid R\}),$$

$$(3.56) \quad \text{Set}_x(R) \rightarrow (\forall x(R \rightarrow x \in a) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset a)$$

が共に成り立つ。またこれらから、次の 1) が成り立つ。

1)  $R$  が  $x$  について集合を作り得るならば、

$$\forall x(x \in a \rightarrow R) \leftrightarrow a \subset \{x \mid R\}, \quad \forall x(R \rightarrow x \in a) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset a$$

が共に成り立つ。

更に、 $R$  が  $x$  について集合を作り得るとき、次の 2)—5) が成り立つ。

2)  $\forall x(x \in a \rightarrow R)$  ならば、 $a \subset \{x \mid R\}$ 。また  $a \subset \{x \mid R\}$  ならば、 $\forall x(x \in a \rightarrow R)$ 。

3)  $x$  が定数でなく、 $x \in a \rightarrow R$  が成り立てば、 $a \subset \{x \mid R\}$ 。

4)  $\forall x(R \rightarrow x \in a)$  ならば、 $\{x \mid R\} \subset a$ 。また  $\{x \mid R\} \subset a$  ならば、 $\forall x(R \rightarrow x \in a)$ 。

5)  $x$  が定数でなく、 $R \rightarrow x \in a$  が成り立てば、 $\{x \mid R\} \subset a$ 。

[sthmspiniset]

**定理 3.10.**  $A$  と  $R$  を関係式とし、 $x$  を文字とする。このとき

$$\text{Set}_x(A) \rightarrow ((\exists x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists_A x(R)), \quad \text{Set}_x(A) \rightarrow ((\forall x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \forall_A x(R)),$$

$$\text{Set}_x(A) \rightarrow ((\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R)), \quad \text{Set}_x(A) \rightarrow ((\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R))$$

がすべて成り立つ。またこれらから、次の (3.67) が成り立つ。

$$(3.67) \quad \begin{aligned} &A \text{ が } x \text{ について集合を作り得るならば,} \\ &(\exists x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists_A x(R), \quad (\forall x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \forall_A x(R), \\ &(\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R), \quad (\exists! x \in \{x \mid A\})(R) \leftrightarrow \exists!_A x(R) \text{ がすべて成り立つ.} \end{aligned}$$

[sthmallegiset=]

**定理 3.11.**  $R$  と  $S$  を関係式とし、 $x$  を文字とする。このとき

$$(3.68) \quad \forall x(R \leftrightarrow S) \rightarrow \{x \mid R\} = \{x \mid S\}$$

が成り立つ。またこのことから、次の 1), 2) が成り立つ。

1)  $\forall x(R \leftrightarrow S)$  ならば、 $\{x \mid R\} = \{x \mid S\}$ 。

2)  $x$  が定数でなく、 $R \leftrightarrow S$  が成り立てば、 $\{x \mid R\} = \{x \mid S\}$ 。

[sthmsmtalltisetsubseteq]

**定理 3.12.**  $R$  と  $S$  を関係式とし、 $x$  を文字とする。このとき

$$(3.71) \quad \text{Set}_x(R) \wedge \text{Set}_x(S) \rightarrow (\forall x(R \rightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset \{x \mid S\})$$

が成り立つ。またこのことから、次の 1), 2), 3) が成り立つ。

1)  $R$  と  $S$  が共に  $x$  について集合を作り得るならば、 $\forall x(R \rightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$ 。

2)  $R$  と  $S$  が共に  $x$  について集合を作り得るとする。このとき  $\forall x(R \rightarrow S)$  ならば、 $\{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$ 。またこのとき  $\{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$  ならば、 $\forall x(R \rightarrow S)$ 。

3)  $x$  は定数でないとする. また  $R$  と  $S$  は共に  $x$  について集合を作り得るとする. このとき  $R \rightarrow S$  ならば,  $\{x \mid R\} \subset \{x \mid S\}$ .

[sthmsmtalleqiset=eq]

**定理 3.13.**  $R$  と  $S$  を関係式とし,  $x$  を文字とする. このとき

$$(3.79) \quad \text{Set}_x(R) \wedge \text{Set}_x(S) \rightarrow (\forall x(R \leftrightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} = \{x \mid S\})$$

が成り立つ. またこのことから, 次の 1), 2) が成り立つ.

- 1)  $R$  と  $S$  が共に  $x$  について集合を作り得るならば,  $\forall x(R \leftrightarrow S) \leftrightarrow \{x \mid R\} = \{x \mid S\}$ .
- 2)  $R$  と  $S$  が共に  $x$  について集合を作り得るとする. このとき  $\{x \mid R\} = \{x \mid S\}$  ならば,  $\forall x(R \leftrightarrow S)$ .